

昭和初期、熊川駅から片倉製系（多摩製系）の間に石炭を運ぶトロッコ線がありました。今回は白梅歴史懇話会「熊川駅のトロッコ線」(10月12日(日)実施)での小林菊三さん、森田勇さんほか地域の皆さんの話をもとにまとめてみました。

熊川駅で見る

大正14年4月に五日市線が拝島〜武蔵五日市間で開通しました。その時はまだ熊川駅はありませんでした。昭和6年5月、地域の皆さんの熱意と出資により、懸案だった熊川駅ができました。当時の駅は今の場所ではなく、現在の新奥多摩街道と奥多摩街道の間にありました。（もちろん新奥多摩街道はその時ありません。熊川駅が現在の位置に移設されたのは昭和35年です。）

トロッコ線があったよ

当時、熊川駅の東側に石炭置き場がありました。その石炭はトロッコで製系場に運ばれ、ボイラーなどの燃料にされていたようです。

『福生市史 下巻』によれば、トロッコ線は昭和6年から昭和11年くらいまで使われていたのでは？との記載がありますが、詳細については明らかになっていません。

当時、子どもだった方々の話では、

図のように現在の熊川駅の前をとおる、ぐるっとまわって現在のガソリンスタンドの南側の道をまっすぐ製系場に入っていたようです。当時は家もほとんどなく、桑畑ばかりでした。

石炭を積んだトロッコ(リヤカーくらいの大きさだったようです)はおじさんが一人で押していました。たまに遊んでいる子ども達に声をかけ、押すのを手伝ってもらったそうです。子ども達は勢いをつけて押し、動き出したトロッコに飛び乗り遊びました。押してもらった手前、おじさんも目をつぶってくれたのだそうです。

トロッコ線は製系場に向かって下り坂になっており、おじさん一人でも押すことができたのでしよう。線路はトロッコが使われなくなっただけから残っていたようです。

引込み線(貨車置き場)

石炭置き場のところには五日市

線からの引き込み線がありました。そこには切り替えポイントがあり、石炭を積んだ貨車1輛をひいた蒸気機関車は拝島方面から引き込み線に入るところで貨車を切り離し、熊川駅側から五日市線に入って、バックで拝島へ戻ったようです。貨車はそこへ置かれ、おじさんが石炭置き場に石炭をおろします。

石炭置き場は子ども達の遊び場

子ども達は石炭置き場でよく遊んだそうです。

そこは屋根がかかっていて、雨降りの時でも遊べる格好の遊び場でした。

線路には石炭が落ちていて、それを拾って帰ると親に喜ばれたそうです。でも、けっして石炭置き場の石炭には手をつけませんでした。

石炭はお風呂の炊きつけに使いました。石炭で沸かした風呂は冷めに



〈図〉熊川駅のトロッコ線（皆さんからの話をもとに当時の様子を今の住宅地図に落とし込んでみました。だいたいこんな感じ……という理解をお願いします。）

くかったようです。でも、ちょっとビリビリしてお湯がとんがっていた……というお話も聞かせていただきました。

参考文献  
『福生市史 下巻』(福生市 平成6年)